

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム平泉

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372600262		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム平泉		
所在地	〒029-4102 西磐井郡平泉町平泉字日照田133-2		
自己評価作成日	令和4年10月30日	評価結果市町村受理日	令和5年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

世界遺産である毛越寺より車で2~3分の所にある。のどかで自然豊かな環境の中にあり、四季折々の変化を感じることが出来る。利用者様の小さくても出来る事を見つけ出し、日常生活の中に取り入れ、生き生きとした生活が送れるよう支援している。季節ごとの行事(お花見・七夕・夏祭り・芋の子会・紅葉狩り・みずき飾り・節分・ひな祭り等々)を行い、季節が味わえるようにしている。また、コロナ感染予防からボランティアは受け入れていないが、代わりとして、職員がかくし芸(踊り・手品・語り部等)を行い、利用者様が「今日も1日いいがったなあ」と楽しく笑いのある日々が送れるように心掛けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北側の丘陵を背に周辺には水田が広がり、四季の変化が楽しめる自然豊かな環境に事業所はある。開設時に定めた理念に掲げる「愛、人と人のつながりのあるグループホーム」を柱に、前年度の振り返りを踏まえた年度目標を設定している。今年度は「心にゆとりを持ち、利用者様の尊厳を大事にし、言葉遣いに留意する。」を始めとする3本の具体的な目標を設定し、介護にあたっている。コロナ禍にあって、面会や交流、行事等に多くの制約がある中で、事業所内での夏祭りや敬老会の行事では、職員がアイデアを出しあい、余興等を盛り上げ楽しい時間を創っている。職員同士、利用者同士が支え合いながら、職員は、人生の先輩である利用者から学びながら、「今日も一日いいがったなあ」と言ってもらえるグループホームの実践に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年11月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム平泉

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を共有スペースの壁に掲げ、常に念頭に置いている。また、年度ごとに介護目標を立て、目標達成出来るよう日々、協力し合っている。	開設時に定めた理念「愛・人と人とのつながりのあるグループホーム」を柱に、職員で検討し毎年度“目標”“具体的内容”を設けている。今年は「利用者様の尊厳を大事にし……話を傾聴」とし日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防の為、地域との交流は控えている。	従来は、介護相談員や傾聴ボランティア、小学生の来所があり、夏祭等への地域住民の参加があったが現在はコロナ禍で中断している。事業所行事等の案内は、自治会の好意で地区住民にお知らせしている。	開所18年の事業所で、区長・民生委員にが運営推進委員をお願いしているが、地域との絆はやや疎遠ではとの印象を持つ。自治会へ加入するなどし、町内会・老人クラブ等との繋がり等を確かなものにする事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族様の来所時や実調の際等に認知症の症状について、その都度、説明を行い、理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行っていないが書面開催とし、利用者様やホームの状況を文章にて報告し、疑問や意見等を頂くようにしている。	コロナ禍前は、各委員から防災・行事・感染症などについて活発な意見が出されていた。現在は感染防止のため、毎回書面開催(資料を広報と共に郵送)のため、特に委員からの感想・意見は把握できないでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の緊急・特変時、また、利用申込者の情報をお互いに提供・共有する事で良いケアが出来るよう協力して頂いている。	要介護認定申請やワクチン接種、災害対応等で町から様々な指導等を得ており、事業所の実態も理解していただいている。保健センターで開催される地域ケア会議では、各種情報交換や困難事例の検討・研修が行われ、事業所として参加している。生活保護受給者が入居しており、県の担当ケースワーカーとも連絡をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関等の施錠は安全面を考慮して夜間のみとし、見守りでの対応に重点を置いている。また、身体拘束委員会を設置し、3ヶ月に1回会議を行っている。	身体拘束防止委員会(管理者等3名)は年3回、全職員対象の研修会は2回実施している。不適切な言葉遣いに関するアンケートを職員に実施した結果を踏まえ、具体的な事例をもとに理解を深めている。言葉による行動抑制は、管理者やケアマネが適時声掛けし注意を促している。	

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム平泉

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、虐待はしてはいけないものだという認識を常に念頭に置き、利用者様の気持ちに配慮した介助に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の内部研修を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行う他、不明点がある際はいつでも問い合わせして頂ける旨を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望箱を玄関に設置している。通院等の来所時や電話にて意見や要望を伺い、日々のケアに反映させている。また、話しやすい雰囲気作り心掛けています。	殆どの利用者は、食べ物(たい焼き・ラーメン)などの自分の希望等を職員に伝達することができている。毎月居室担当からの手紙を家族に届け状況を報告しており、事業所の実情を理解した上で、電話や通院同行の来所時に相談されることが多い。食べ物の差し入れや、孫娘の成人式の着物姿を見せたい等の要望には個別に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を通じ、運営についての意見等が出た際には管理者を通じて代表者への意見・提案を行うようにしている。	毎月のスタッフ会議で、意見・要望を把握しており、年1回本社役員の個別面談もある。コロナ禍で活動に制約がある中「利用者を楽しみを」と職員の提案があり、事業所内行事(夏祭り・敬老会)では職員の手品や踊りを披露した。施設・設備の不都合(トイレ排水の修繕)は直ちに改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士、お互いの状況を勘案し、労働時間の調整や環境整備を代表者に提案し、働きやすい職場作りに努めている。		

事業所名 : グループホーム平泉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行い、介護力アップに努めている。実践面では個別指導等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議はコロナ感染予防にて書面での開催としている。管理者が町の地域ケア会議等に参加している。また、同法人内4つのグループホームの管理者と代表者にて月1回ホーム長会議を開催し、情報交換や意見等を話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅を訪問し、要望や心配事等、話を傾聴している。安心して過ごせるようケアプランに取り入れている。ホームの生活に慣れるまで不安や困っている事がないか等、頻回に聞き、コミュニケーションを多く取ることで信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査時に要望や心配事を伺い、ケアプランに反映している。電話や来所時にはホームでの様子を伝え、安心して頂けるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議を行い、本人とご家族様より話を聞く事により、要望等をケアプランに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のADLや元の生活環境を勘案し、家事をお願いし手伝って頂いている。本人の話を傾聴し、不安なく安心した生活が送れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が通院等の来所時には現在の様子を伝えていく。また、毎月、ご家族様へ手紙を出し、1ヶ月の状況報告を行い、安心できるよう配慮すると共に話やすい雰囲気作り心掛けていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会・外出・外泊が出来るようにしていたが、コロナ感染予防の為、現在は面会制限等を行っている。	家族等から宅急便が届いた時には、事業所からお礼の電話をかけ、利用者と家族とが電話で話しをできる機会を作っている。定期通院の際に、家族の協力で自宅へ寄ったり、馴染みの食堂やお店、美容院を利用している。来所する理容・美容師との新たな馴染みも出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	より良い関係を築けるよう席の配置を工夫している。利用者様が会話を楽しめるよう職員が架け橋となり支援している。また、居室で長時間一人での事のないよう声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ相談や支援を行うよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話をする際は目線を合わせ、話しやすい雰囲気作りに努め、希望や意向を把握出来るようにしている。	殆どの利用者は言葉での意思疎通ができ、1対1になる入浴介助や就寝準備時には、利用者との会話を特に大切にしている。利用者の声を職員で共有しながら楽しく豊かな生活を送れるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査時・入居時のアセスメントでは日々の暮らしについてご本人・ご家族様・利用されている介護サービス事業所等から基本情報や生活状況等を聞き、同じような環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・介護記録・申し送りノートなどで一人ひとりの状況把握に努め、ケア会議で話し合い、職員間で状況を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年度初めには介護目標及び実践計画を作成している。ケアプラン作成時にはご家族様に電話等で要望について確認し、ケア会議ではモニタリングを行い、問題点等について話し合い、ケアプランに取り入れている。また、医療との連携を図り、主治医の意見もケアプランに取り入れている。	介護計画の見直しは、6か月毎に行ない、ケアマネが日々の記録をもとに、主治医や家族の意見・要望も加味しながら案を作成し、ケア会議で全員で協議して決定している。見直し後の介護計画は、ケアマネが家族に説明した上で同意を得ている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム平泉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化や気づき等を介護記録や申し送りノート、支援経過記録に記入を行っている。また、ケア会議にてモニタリングを行い、プラン作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化・ご本人やご家族様の要望に応じ、その都度サービスの提供・変更を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防の為、外部との接点は少なくなっている。コロナワクチン接種は平泉町コロナワクチン対策チームと連絡を取り、集団接種にて行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続している。定期通院時には状態・血圧等、主治医に報告し、医療との連携を図っている。	入居前からのかかりつけ医に家族同行で通院している。血圧手帳とともに日頃の健康状態の記録を家族に託し、不明な事項がある場合には、主治医から照会の電話をもらっている。受診後に家族から通院結果の報告を得ている。インフルエンザの予防接種は、協力医で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は事業所に配置していない。基本的にはご家族様対応で通院しており、通院時には職員がご家族様に必要な記録を渡すなど、医師や看護師に伝えて頂く様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時にご家族様や医療機関と情報交換を行っている。必要に応じて職員が入院中の利用者様の様子を把握しに病院へ出向き、相談員等から話を聞いている。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム平泉

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した際、ご家族様と話し合うと共に医療機関からケアに対するアドバイス等を頂き、対応している。ただし、看取りの対象となるようなケースでは対応が難しいことから、他施設等への入所を進めている。	入居時に、地域の医療・看護体制の現状から、重度化・終末期の対応には看取りを含め限界があることを説明し、同意を得ている。介護度が高くなった場合には、医師の助言を基に家族と相談し、特別養護老人ホームへの入所や状態によっては医療機関への入院について支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、救命救急講習を受講していたが、コロナ感染予防の為、現在は内部研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難・防災訓練を実施している。訓練時に避難場所や誘導の仕方等について再確認している。火災時は六区公民館を避難場所とし、土砂災害時には役場の指示に従い、避難するようにしている。	夜間想定訓練を含め、避難訓練を年2回実施している。地域に自主防災組織はないが、運営推進委員や近隣住民かけつけ、発災時に5分以内で到着できる職員も招集している。ハザードマップで土砂災害地域に指定されており、砂防ダムの建設も計画されている。3日分の飲料水、食料を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、優しく思いやりのある言葉掛けを行っている。	利用者一人一人について、これまでの永年の生活習慣等を把握し、それを再現出来るよう好きな事や得意な事を大切にしている。プライバシーを保護するため、トイレ誘導時の声掛けや入浴時の介助では、羞恥への配慮に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話やすい雰囲気作りを心掛け、利用者様からの訴えに耳を傾け、日常会話の中から聞き出すよう努めると共に選択肢を設ける等、ご本人が自己決定しやすいように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活ペースを大切にし、ご本人が満足し、楽しく過ごして頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	装飾品・衣類などご本人の好みに合わせ、外出時に更衣し、身支度を行っている。また、また、起床時の整容や入浴時の着替えはご本人好みの服を職員と一緒に選んでいる。定期的に訪問美容を利用したり、昔からの行きつけの美容院への支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時、季節感のあるものや利用者様の希望等をメニューに取り入れている。食事準備(皮むき等)や食後には利用者様に茶碗拭き等を手伝って頂いている。	利用者の希望を取り入れて職員が献立を作り、食材は、利用者と一緒に近くの店に出掛けて購入している。家族から大根や赤カブの差し入れがあり、煮物・漬物にして喜ばれている。利用者は、皮むき等の下ごしらえや食後の下膳、食器拭きに参加している。敬老会のちらし寿司は好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの状態に合わせ量を調整している。食事・水分量が少ない利用者様には栄養補助食品や好みのものを代替として提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい・歯磨き・義歯の手入れについて声掛け・介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時及び希望時にトイレ誘導・声掛けを実施している。排泄チェック表や介護記録を元に個々の排泄パターンを把握し、誘導・声掛けのタイミングに反映させている。	排泄パターンを把握し、利用者の仕草を観察しながら・声掛け、誘導を行っている。食事や就寝前には、トイレでの排泄を支援している。布パンツ利用は2名で、他はリハビリパンツにパットを併用している。夜間にポータブルトイレを使用する人はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を活用し、排便の間隔が空いている方には水分を多めに提供している。処方された整腸剤や下剤を服用していただく等、便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めていない。前回との間隔を見ながら声掛けをし、入浴時は世間話をしながらゆっくり入浴して頂く様にしている。	週2回の入浴を基本に、毎日午後1日2人程がゆっくりと時間を気にせずに入浴している。順番や温度は利用者の希望に添い、入浴中は職員と会話を楽しんでいる。入浴を避ける方には無理強いせず、他の職員が代わって誘うなどしている。時には入浴剤で色や香を楽しんでいる。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム平泉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコン・スポットクーラーや床暖房等による室温調整を行い、ゆっくり休んで頂けるようにしている。午睡をしない方もおられるので個々の状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が変更となった際、薬効・副作用など全職員が把握出来るよう、お薬説明書や申し送りノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の状況に応じて食事準備や食器拭き・洗濯たたみ等を職員と一緒にしている。行事やレクリエーション等への参加の声掛けを行い、楽しく過ごせるよう支援している。新聞・広告や塗り絵等自由に読んだり、書いたり出来るよう、取りやすい所に配置している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頻繁には行えていないが、行事の中にドライブを取り入れるようにしている。また、状況に応じて家族と外出できる様支援している。	天気が穏やかな日は、プランターの花の世話や草取りをしながら、日光浴や外気浴を楽しんでいる。コロナ禍で外出機会は限られているが、春の花見、秋の紅葉狩りなど、ドライブに出掛けて楽しんでいる。家族が受診に付き添った機会に、一緒に外食したり自宅に立ち寄りしたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了解のもと、少額であれば所持して頂いている。コロナ感染予防の為、一緒に買い物には行けないが、希望時はお金をお預かりし、ご本人の希望の物(菓子・飲み物等)を職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時や贈り物が届いた際などご家族様等へ電話出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム周辺の景色から季節が感じられるよう非常口付近に椅子を置いて外を眺められるようにしている。また、テーブルに季節の花を飾ったり、玄関周辺の廊下を中心に行事の写真や季節に応じた飾りつけを行っている。	テーブルや椅子が置かれた明るく広いホールは、キッチンと対面し、床暖・エアコン・空気清浄機付加湿器により温度や湿度が快適に保たれている。利用者が日中殆どの時間を過ごすホールの窓からは、畑・水田が広がり四季の変化が味わえる。壁面には季節に応じた手作りの飾りが貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士と一緒に過ごせるよう共有スペースの席を工夫している。また、一人で過ごしたい利用者様の場合はホールと居室への移動は自由に行い、CDやラジオを聞く等、自分の時間を楽しんで頂き、転倒など危険の無いよう見守りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具や布団を持って来ていただき、不安なくゆったり過ごせるよう支援している。	ベッドはレンタルや持ち込みで、床に布団を使う利用者もいる。衣装ケース、カラーボックス、座椅子やラジオ、CDプレーヤーなど、使い慣れたものを持ち込んでいる。壁に家族の写真、ぬり絵、カレンダー等が飾られ居心地よく工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物も玄関を除き、段差のないバリアフリーとなっており、トイレ・居室など目印や声掛けなどで自立した生活が出来るよう支援している。歯ブラシ・コップ等、ご本人が取りやすい所へ置く等、自分で口腔ケアが出来るよう支援している。		